

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13770

研究課題名（和文）シェアリング・エコノミーに関する非市場戦略の実施プロセス：ライド・シェアを中心に

研究課題名（英文）Sharing economy and nonmarket strategy processes

研究代表者

遠藤 貴宏（Endo, Takahiro）

神戸大学・経済経営研究所・リサーチフェロー

研究者番号：20649321

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：研究を進めていくに従って、配車アプリの全国を網羅した形での開発も非市場戦略の枠組みで捉える必要性が明らかになっていった。本研究ではHOS(Historical Organization Studies)を援用し、ライドシェアに関わる非市場戦略を分析した。端的にHOSの要諦を述べると、歴史と組織理論との良い点を同時に実現すること(dual integration)を目指すものである。この視点を用いて、組織論的な問いとしては、非市場戦略の実施におけるネットワークオーケストレーション(network orchestration)の役割を導出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

非市場戦略の研究は、組織単位で行われることは多かったが、組織群を網羅するような形での非市場戦略に関しては研究蓄積がほとんどされていない。それ故に、組織論の観点からみると、新規性のある知見に結びつく可能性が極めて高い問いである。この理論的な問いに答えるために、タクシー業界と許認可の歴史的な経緯、「外圧」としてのライドシェア提供サービスの進出とそれへの反対、そこから全国を網羅する形での配車アプリの開発までを射程に原稿をまとめなおすことが可能となった。

研究成果の概要（英文）：By adopting the HOS perspective, this study examines the role of network orchestration in non-market strategies through a historical analysis of the Japanese cab industry. The taxi industry has been heavily regulated and the industry was generally opposed to ride-sharing services. Over time, it began to develop its own ride-hailing applications. Importantly, the ride-hailing application was not limited to one taxi company, but across the entire country.

研究分野：組織論

キーワード：組織論 ロビー

### 1. 研究開始当初の背景

規制がどのようにできるのだろうか。この点をめぐっては、その規制を受ける個々の組織、および組織群(複数の組織の集合体)がどのような利害関心を持ち、どのように規制に働きかけるのかという点が認識されつつある。そうした規制の成り立ちとビジネスの関係を解明しようとする理論的な視座として、非市場戦略が挙げられる。本研究はこうした問題意識を踏まえて、ライドシェアに関わる規制がどのように形成されてきたのかを分析するものである。

### 2. 研究の目的

特に本研究が注目するのは、非市場戦略(non-market strategy)の実施におけるネットワークオーケストレーション(network orchestration)の役割を解明することである。ネットワークオーケストレーションとは、組織の集合体がどのように組織化され、何を実現するのかという点を捉える上で有用なレンズである。個々の組織を考えた場合、権限関係、ゴールやアイデンティティに関して多くの知見が蓄積されてきたと言える。

例えば、権限関係としては組織階層を前提としつつそれを補完するための給与などが挙げられる。また、ゴールに関しても、目標設定とその期間(短期、長期など)を中心に多くの研究蓄積がある。また、アイデンティティとしては組織の構成員に着目し、例えば業務内容(組織におけるコア業務がそうではないか、など)を中心に、多くの研究が行われてきた。それに対して、組織をまたぐような場合に、集合体としてどのように、またどの程度、組織間のアクターが統合されるのかという点に分析の焦点が置かれる。

ネットワークオーケストレーションに関して、階層構造は多くの場合、あまり機能しない場合が多いことが指摘されつつある。これは、組織間における階層構造が確認されるのは、「親会社と子会社」のような場合に限定されるからであり、資本や取引上において独立である組織間においては、階層を前提とすることが難しいということである。ネットワークオーケストレーションに関するゴールを考えてみると、「誰がどのように」意思決定を行うのかという点や、「意思決定はどこまで拘束力を持つのか」といった点が、組織内でのゴール設定と比べた際に大きな違いを生み出す要素である。また、アイデンティティとしても多くの場合、組織間をまたいで統一的なものを共有することは困難であることが指摘されている。

### 3. 研究の方法

当初はタクシー事業者の現場の訪問と、事業者たちへの聞き取りを主たるデータ収集方法として考えていた。しかしながら、コロナ禍で、この方法を用いることは大きな制限があることが明らかになっていった。多くのタクシー事業者は困難に直面した。事業者の主たる関心事項は必ずしもライドシェアへの対策ではなくなるとも言える。事業者にとっての根源的な問いとして、「存続が可能かどうか」というような問題が浮上してきた時期がコロナ禍であった。

訪問・聞き取りに備えて、下調べを行うことが一般的であり、本研究でもそのような下調べを行ってきた。具体的には、規制の史的な展開を含めた、文書資料(textual data)を丹念に収集・読み解くという作業である。そこで、こうした文書資料をなるべくメインのデータソースとして活用する方向へと大きく舵を切る方向を探った。そこでディスコース分析を始め、いくつかの方向性を検討した。その結果、最終的に、HOS(Historical Organization Studies)を援用することに決定した。HOSは事例に関する深い史的経緯を組織論上の問いと統合することを可能とする視座である。この視座に基づき、ライドシェアに関わる非市場戦略を分析した。端的にHOSの要諦を述べると、歴史と組織理論との良い点を同時に実現すること(dual integration)を目指すものである。具体的には、次の2つの要素のそれぞれにおいて、及第点を目指すことになる：

1. 歴史学における史料を批判的に読み解いていく手法

2. 組織論における概念的な思考法

上記の1に関して言えば、複数の史料を検討して慎重に歴史の流れを追っていくことが求められる。また、2に関して言えば、組織論の文献を理解し、意義のある理論的なパズルを特定し、それを解明することを意味する。その結果として本研究では、次の2つの要素を統合するということを目指した。まず、一方では、交通関連の歴史の流れを史料を利用して読み解いていくことが挙げられる。経営史を専攻している知人の経営史学者に適宜指南を受けながら、史料を批判的に検討した。また、交通関連の歴史的な流れや組織論の文献を検討することを通じて、「既存参加者のネットワークオーケストレーションにより、新規参加者に対抗することが可能となるのはなぜか」という理論的なパズルを導出した。

### 4. 研究成果

(1)ライドシェアにおける規制の成り立ちを分析する上では、そもそも規制のあり方の史的な展開を踏まえるという作業が第一に必要であった。そこで、ライドシェアに関わる規制に関して、時間軸を長く取った上で整理する作業を行なった。この過程で国会議事録などを適宜参照する

とともに、日本において注目を集めたマネジメントに関わるアイデアの変遷についても視野に入れた。というのも、規制が議論される際に、「各国における過去の(不)成功体験」が議論の方向性に大きく影響を与えるからである。この点からいった際に、「改善」や「リーン」といった比較的長期間にわたって日本において影響力を持ってきたアイデアに加えて、近年徐々に影響力を高めつつある「アジャイル」といったアイデアまでを視野に入れて、考察を行った(Endo et al.,2021)。この結果、「改善」や「リーン」といったアイデアは、日本における過去の成功体験と深く結びつけられており、「アジャイル」などに対しては積極的に受容するとは必ずしも言えないことが浮き彫りになった。この点は、いわゆる「シェアリングエコノミー」と言われるものが日本において受容されていくプロセスでも大きな役割を果たしていることが観察された。すなわち、シェアリングエコノミーが「改善」や「リーン」というアイデアと結びつけられるか否かが一つの争点となることが推察された。実際にライドシェアに関して見ると、「改善」や「リーン」との結びつきは見つけられず、むしろそれとは反対の志向性を持ったものとして捉えられる傾向が国会議事録などにおいては顕著であった。

(2)こうした背景のもと、ライドシェアに関わるネットワークオーケストレーションを分析した。ネットワークオーケストレーションを分析する上では、業界に関して、どのようなルール・資源配分が存在し、どのようなプレーヤーがどういう関係性(無関係、協力関係、敵対関係)を構築しているのかといった点を踏まえて、その推移を観察していくことが有用である。この視点は、申請者が関連する研究(Nicklich et al., 2023)で用いたSAF(strategic action field)という分析視座により与えられているものである。ルール・資源配分という点でいうと、国からの認可がライドシェアにおいては非常に重要なものである。この点は、短期的にそうであるというわけではなく、数十年にわたりその重要性が確認された。つまり、「白タク」問題として一般にも広く知られるように、乗客を有償で移動する行為は自由に実施できるものではない。国からの認可を受けることが必要となるのだ。こうしたルール・資源配分のもと、プレーヤー間の関係性として、既存のタクシー業界のプレーヤー間で強固な協力関係が見られた。また、認可は基本的に、こうした既存のタクシー業界のプレーヤーと、政府との協力関係が前提とされている。それに対して、既存のタクシー業界のプレーヤーとライドシェアを担う企業とは敵対関係にある。こうしたプレーヤー間の関係性があるからこそ、既存のタクシー業界のプレーヤーたちは協力関係をベースとして、全国横断的なアプリケーションの開発が実現したのである。

引用文献：

**Endo, T.**, Fujiwara, M., & Tsuboyama, Y. (2021). Travelling Management Ideas: Agility in Japan. *The Agile Imperative: Teams, Organizations and Society under Reconstruction?*, 175-201.

Nicklich, M., **Endo, T.**, & Sydow, J. (2023). Relational Distance and Transformative Skills in Fields: Wind Energy Generation in Germany and Japan. *Management and Organization Review*, 1-30. doi:10.1017/mor.2022.47

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Morris, J., Hassard, J., Delbridge, R., & Endo, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Understanding managerial work in the modern Japanese firm: The influence of new organizational forms and changing human resource management practices.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic and Industrial Democracy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0143831X19875785	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------